

乳児の気質評定と母親の精神的健康の関連

—RITQ 短縮版と家族要因から—

研究協力者 佐々木靖子¹⁾

主任研究者 本城秀次²⁾

1) (社福) 恩賜財団母子愛育会

2) 名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター

【問題・目的】

近年、乳児の気質研究では、その後の行動特徴、対人関係の持ち方や愛着形成などといった発達側面との関連が注目されている。

気質に関する先駆的な調査には、1950年代に始まった Thomas & Chess の NY 縦断研究 (NYLS; Thomas, Chess, Birch, Hertig, & Korn, 1963) がある。Thomas らは、日常場面での乳幼児と親の反応の分析から、9次元の気質側面をみいだした。すなわち、活動水準、周期性、接近性、順応性、反応の強さ、敏感性、気分の質、気の散りやすさ、そして注意の範囲と持続性である。Carey らは、NYLS の面接プロトコル資料から 70 項目の気質尺度である Infant Temperament Questionnaire (ITQ) を作成した後に、改訂を加えて Revised Infant Temperament Questionnaire とした (RITQ: Carey, 1970; Carey & McDevitt, 1978)。その改訂において、信頼性や客観性を保つために項目数が増やされ最近の行動について頻度で評定する形式が採用された。

しかし、RITQ の元となった NYLS の 9 特性は、もともと現象的なアプローチからみいだされたものだった。それ以降、統計的な検証が多く試みられてきたが、9 特性が互いの側面と概念的に重複したり、内的な一貫性がないという問題点を抱えており現在も検討の余地が残されている (Sanson, Prior, Garino, Oberklaid, & Sewell, 1987; Sanson, Smart, Prior, Oberklaid, & Pedlow, 1994; 菅原・島、戸田・佐藤・北村, 1994)。

気質の測定法は質問紙法および実験室や家庭訪問による観察法に大きく分けられ、それぞれの長短が Bates (1989) によってまとめられている。質問紙法は、利用が簡便で短時間に大量のデータ収集が可能である。

ただ親の評定でも子どもの気質をある程度は客観的に測定できるものの、親の性格特性や家族要因といった主観的な部分にも影響を受けることが指摘されている

(Bates & Bayles, 1984; Bates, 1987)。Bates (1987) は、主観的要素の影響の例として親の不安や抑うつが強い場合、あるいは社会階層の低い家庭では子どもの気質が negative にとらえられやすいことを挙げている。また、Sasaki らは、RITQ (Carey et al., 1978) の短縮化を目的とした因子分析から、母親評定による乳児の気質構造には養育者としての視点が反映されている可能性があるとして述べている (Sasaki, Mizuno, Kaneko, Murase, & Honjo, in submitted)。

Carey(1980)は質問紙の限界や面接による補助の必要性を認めつつも、小児科医として母親の評定と実際の乳児の行動についてのずれに積極的な関心を寄せていた。母親が子どもの反応を評定することで、子どもに対する気づきや内省を深め、健全な母子相互作用を促すのではないかと考えていた。

それでは、母親の評定する気質側面と母親の心理的要因および家族要因はどのように関連しているのだろうか。本調査では、RITQ の短縮版と母親の特性やデモグラフィック要因との関係について調査することを目的とする。

今までにも乳児の気質と母親の精神的健康との関連をみた研究はいくつかみられる。一般的に見知らぬ人や場面への適応が遅い、世話がしにくいといった「difficult」の気質傾向を持つ子に対しては、母親の抑うつ傾向や育児ストレスが喚起されやすいという。例えば、子どもの difficultness が、母親の産後抑うつへ、直接もしくは母親の効力感を媒介して強く関連する

(Cutrona & Troutman, 1986)、difficult の子どもを持つ母親の育児ストレスはそうでない子の場合よりも高い (水野、1998; Honjo, Mizuno, Ajiki, Suzuki Nagata, Goto, & Nishide, 1998)、乳幼児の過敏性が母親の抑うつや子育てへの効力感の低さを予測する (Gowen Johnson-Martin, Goldman, & Appelbaum, 1989)。母親の特性の視点からは、不安の強い母親は子どもがなだまりにくいことが多く自信を失いやすい (Escalona, 1968)、そして 6 ヶ月時の乳児のフラストレーション耐性は母親のそれ以前の抑うつと負の相関がある (Sugawara, Kitamura, Aoki, & Shima, 1999) といった報告がされている。

気質評定とデモグラフィック条件との関連では、Prior, Sanson, Carroll, & Oberklaid (1989) が社会経済状況 (SES) の低い母親は高い母親よりも子どもを「difficult」と評定しやすいものの、そのことであまり悩まないことを示唆している。また、Honjo et al. (1998) は、6・7 か月の時点で difficult である第 1 子を持つ母親は、同様の第 2 子以降と比べて 18 か月の時点で育児ストレスを感じやすいという結果を報告している。これらのことから、親の収入状況や学歴、子どもの出生順位にも注目する必要があるだろう。

本調査における具体的な変数としては、まず子どもの気質と、母親の心理的要因としての分離不安、子どもへの愛着、育児ストレス、抑うつ傾向および夫婦関係、そしてデモグラフィック要因としての子どもの月齢・出生順位、母親の年齢・学歴、家庭の収入との関連について検討する。

【方法】

①被検者

調査は 2000 年 2 月から 2002 年 5 月まで行われた。

H 保健センターの 7 か月検診に訪れた母親を対象に、保健婦によって約 600 部の質問紙が配布され、237 名の返信を得た。そして、乳児の健康状態の質問項目から、新生児仮死、呼吸障害、視力障害、もしくは頭蓋骨出血のいずれかに該当した 10 名、および欠損値のあった質問紙を以下の分析から除いた結果、最終的な有効回答数は 226 名だった (有効回答率、約 37.7%)。

対象乳児の性別・年齢・出生順位と両親の年齢・学

歴の内訳は表 1 のとおりである。

②質問紙

質問紙は以下の尺度項目から構成された。

(1) 家族の基本的属性

乳児の生年月日や家族員の構成・人数、両親の年齢・教育歴、世帯所得、住居の種類などを質問した。

表 1 被検者の属性 (N = 226)

乳児の属性	
平均年齢	6.78 か月 (SD 0.60 範囲 6-8)
性別(%)	男子: 49.1 女子: 50.9
出生順位(%)	第一子: 57.5, 第二子: 32.6, 第三子以降: 9.9
親の属性	
母親の年齢	29.4 歳 (SD 4.2 範囲 19-40)
学歴(%)	中卒: 3.1 高卒: 41.3 短大卒: 44.0 大卒以上: 11.6
勤務(%)	常勤: 5.5、パート・臨時: 6.8、無職: 87.8
父親の年齢	32.2 歳 (SD 5.4 範囲 21-50)
学歴(%)	中卒: 5.4 高卒: 44.6 短大卒: 17.4 大卒以上: 29.9
世帯所得(%)	200 万~400 万: 29.0 400 万~600 万: 44.6 600 万~800 万: 17.4 その他: 8.0

(2) 乳児の気質尺度

気質尺度は、日本語版 Revised Infant Temperament Questionnaire (RITQ: 4~8 か月用; 佐藤、1985) を使用した。RITQ は本来 95 項目からなるが、Sasaki et al. (in submitted) が 57 項目に短縮化を行っており、その下位尺度は「見知らぬ人・場面への恐れ」、「味覚のこだわらなさ」、「周期の規則性」、「世話のしやすさ」、「活動レベル」、「注意の持続性」、そして「触覚の感受性」の 7 つからなる。「お子さんがおおよそどのような仕方で行動するのか」について、「ほとんど~でない (1 点)」から「ほとんどいつも~である (6 点)」の 6 件法で回答を求めた。項目の内容が「子どもにあてはまらない場合、もしくは情報不足のために答えられない場合」は線で消去してもらい 0 点とした。以降の分析では各下位尺度の合計得点を下位尺度の項目数で割った数値を使用した。

(3) 分離不安尺度

Hock, McBride, & Gnezda (1989) を日本語訳した分離不安尺度の一部である 20 項目について、「ほとんど

あてはまらない (1 点)」から「とてもよくあてはまる (5 点)」までの 5 件法で尋ねた。この尺度は、母子分離場面での母親の不安に関する「母親の分離不安」8 項目と、子どもの不安に関する「子どもの分離不安」12 項目の 2 因子に分かれる。

(4) 育児ストレス尺度

育児ストレス尺度は「育児に自信がなくなることがある」「子どもに必要以上に厳しくあたってしまうことがある」といった 10 項目からなる (Honjo et al., 1998)。

(5) 子どもへの愛着尺度

「子どものことをたまらなくいとおしいと思う」といった子どもに対する母親の愛着尺度 (水野, 1998) 12 項目を「全くあてはまらない (1 点)」から「よくあてはまる (4 点)」までの 4 件法で尋ねた。

(6) 抑うつ尺度

「過去のことについてくよくよ考える」などの抑うつ尺度 (CES-D; 島・鹿野・北村・浅井, 1985) 20 項目について「この 1 週間で 1 日以下 (0 点)」から「5 日以上 (3 点)」の 4 件法で尋ねた。

(7) 夫婦関係尺度

夫婦関係尺度は、菅原・詫摩 (1997) の因子分析において因子負荷量が多かった「夫は魅力的な男性だと思う」といった 8 項目を抜き出し、「全くあてはまらない (1 点)」から「とてもよくあてはまる (5 点)」の 5 件法で尋ねた。

(8) ソーシャルサポートに関する尺度

「つらい時や困った時に相談する人」といったソーシャルサポート 9 項目を設けて、サポートが得られている夫や親などといった対象の任意の数を選択させ 1 か所につき 1 点として合計得点を算出した。

【結果】

初めに、それぞれの変数の平均値を表 2 にまとめた。次に、RITQ 短縮版の各下位尺度と家族要因の相関係数を調べた (表 3)。その結果、出生順位が世話のしやすさおよび注意力の持続性との間にそれぞれ正の相関、触覚の敏感さとの間に負の相関があった ($r = .243$, $p < .001$; $r = .268$, $p < .001$; $r = -.210$, $p < .05$)。ま

た、母親の分離不安と見知らぬ人・場面への恐れおよび活動レベルとの間にそれぞれ正の相関がみられた ($r = .253$, $p < .05$; $r = .260$, $p < .001$)。他には、子どもの分離不安と見知らぬ人・場面への恐れ、母親の愛着と活動レベル、そして良好な夫婦関係と注意の持続性との間にそれぞれ正の相関がみられた ($r = .391$, $p < .001$; $r = .255$, $p < .001$; $r = .214$, $p < .05$)

【考察】

① 気質評定と母親の心的状態

「見知らぬ人・場所への恐れ」で、子どもとの分離不安、母親の分離不安と正の相関、収入との間に負の相関があった。おそらく人見知りや激しい子であれば、分離場面で子どもが不安になりやすいことが容易に予想され、そのことで親自身の分離不安が高まると思われる。それに加えて、Nover らは 9 か月時に観察評定者以上に乳児を difficult であると評定した母親は他の母親と比べてより不安が強く、乳児の探索行動についてあまり情緒的に関わらず干渉的だったとしている (Nover, Shore, Timberlake, & Greenspan, 1984)。もともと不安が強い母親は、結果として子どもの探索行動を制限して新奇場面になじみにくくさせている可能性も考えられた。

そして、「活動レベル」では母親の認知する分離不安や母親の愛着、良好な夫婦関係との相関がみとめられた。子どもが活発で行動範囲が広いと不在時に母親の不安を喚起するものの、他者への働きかけが多いことから母親からの愛着は強まると思われる。

また、「注意の持続性」と育児ストレスには負の相関、夫婦関係の良好さとは正の相関がみられた。子どもの注意・集中力が高い場合には母親の育児ストレスが弱まり、夫婦仲が良い傾向がみられた。

表 2 各変数の平均値 (SD)

	変数	Mean	SD
気質	見知らぬ人・ 場面への恐れ	2.59	.89
	味覚のこだわらなさ	4.47	.89
	周期の規則性	3.78	.84
	活動レベル	4.72	.56
	世話のしやすさ	4.27	.73

注意の持続性	3.21	.79	母親の愛着	41.64	4.55
触覚の敏感さ	3.93	1.06	抑うつ	10.86	8.57
分離 母親の分離不安	29.07	6.43	良好な夫婦関係	30.17	6.29
不安 子どもの分離不安	39.13	7.62	ソーシャルサポート	23.74	8.53
育児ストレス	25.84	4.55			

表 3 気質と母親の変数との関連

気質	母親の 分離不安	子どもの 分離不安	育児 ストレス	母親の愛着	抑うつ	良好な 夫婦関係
①見知らぬ人						
・場面への恐れ	.253 **	.391 ***	.053	.041	-.020	-.054
②味覚のこだわらなさ	-.137	-.097	-.074	.120	-.165 *	-.044
③周期の規則性	-.014	-.065	-.044	.101	-.049	.130
④活動レベル	.260 ***	.128	.128	.255 ***	.028	.180 *
⑤世話のしやすさ	.051	.079	-.044	.090	.017	.019
⑥注意の持続性	-.095	.031	-.190 *	.031	-.103	.214 **
⑦触覚の敏感さ	-.050	-.044	-.026	.000	-.071	-.021

ソーシャル サポート	月齢	出生順位	家族の人数	収入	母親の年齢	母親の学歴
①	.044	.061	-.150	-.054	-.197 *	-.123
②	.182 *	.096	-.048	.001	-.070	.152 *
③	.134	-.072	.113	.110	.030	-.008
④	.025	-.050	-.075	-.039	.044	-.044
⑤	-.027	.009	.243 ***	.139	.010	.023
⑥	.149	.011	.268 ***	.186 *	.057	.056
⑦	.049	.079	-.210 **	-.167 *	-.003	-.133

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

Wolkind (1982) は、4 か月の乳児の気質が Negative Mood/Irregular であった場合に、42 ヶ月の時点で母親に抑うつ傾向がみられたとしている。本調査では「味覚のこだわらなさ」と抑うつとの間に弱い負の相関がみられたものの、はっきりした結果はあらわれなかった。

② 気質評定とデモグラフィック要因

デモグラフィック要因と気質特性との間にいくつかの関連がみられた。出生順位については「世話のしやすさ」および「注意の持続性」でそれぞれ有意な正の相関があり、「触覚の敏感さ」との間には負の相関があった。つまり、年少のきょうだいのほうが、集中力

があつて世話が楽であり、おむつの状態にそれほど反応しないと認識されやすかった。その理由としては、佐藤らが述べているように、母親が子育てについての知識や経験が乏しい場合には子どもの状態や行動をストレスフルに評価している可能性が考えられた（佐藤・菅原・戸田・島・北村、1994）。第一子の子育ては、母親の気持ちのゆとりを失わせやすく、その結果実際に乳児の機嫌を損ねたり否定的に評定しやすいのかもしれない。出生順位と同様に家族の人数についても「周期の規則性」および「注意の持続性」と関連がみられたが、きょうだい構成による家族構成員の増減との関連が強いためと考えられる。

また、「見知らぬ人・場所への恐れ」には収入の低さ、「味覚のこだわらなさ」に母親の教育歴の高さが関連していた。Prior et al. (1989) は、両親の職業と教育歴から算出した SES の高低による母親の気質評定の違いを調べたところ、SES 低群は子どもを「difficult」と評定しやすいことを報告している。本研究でも、収入の低い家庭の母親ほどなじみのない人や場所を子どもが恐れる傾向があるととらえやすかった。そして、高学歴の母親は、あまり味覚にこだわらないと子どもを評定する傾向がみられた。このように、気質の一面においては、出生順位、親の収入や教育歴といったデモグラフィックな要因が関係していた。

③ まとめ

従来より子どもに対する評定は、評定者の主観的要素や性格特性による影響が指摘されてきた (Bates, & Bayles, 1984; Oberklaid, Sanson, Pedlow, & Prior, 1993)。本調査でも、「見知らぬ人・場所への恐れ」「注意の持続性」といった特性において、母親の心理的要因との間に一定の関連が認められた。

これは、第一に乳児の実際の気質と母親の特性が相互に関連しているためであると考えられる。乳児の気質が親の育児態度や精神状態に作用する一方で、養育者の性格特性が乳児との接し方に影響を与え、子どもの性格形成に寄与することが予想される。

第二に、母親の乳児評定そのものが、母子の相互作用と関連していることが考えられる。Oberklaid et al. (1993) によれば、乳児について母親が difficult であると知覚している程度が、訓練された看護師の知覚以上に就学前の子どもが呈する問題行動を強く予測するという報告がなされている。

これらのことから、子どもに対する養育者の認知を誤差や偏りにとらえるのではなく、むしろ実際の子どもの関係性に影響を及ぼす因子として臨床場面で積極的に活用することは有意義であると考えられる。例えば、乳幼児検診や家庭訪問、保育の現場で、保健師や保育士といった母子の精神保健に携わるスタッフが、母親の評定によって子どもの気質傾向を把握することができる。それだけでなく、母親とスタッフ間の子どもへの評価のずれを考慮するなど、親子関係への臨床的介入において有効に利用することが可能であろう。

本研究では、母親の心理的要因だけでなく、出生順位や社会経済的因子といったデモグラフィックな要因も気質評定に影響を及ぼすことが示唆されたといえる。

本研究の限界として、乳児の気質について母親以外の他者評定を取り入れていないことが挙げられる。今後の課題は、母親の評定に影響を与える要因について因果関係を明らかにするような研究モデルを組み立てることが必要であろう。それとあわせて、気質構造の安定性を確認するために、乳児期の気質構造が幼児期以降も並行しているかどうかといった縦断的調査が求められるだろう。

【引用文献】

Bates, J. E. (1987) Temperament in infancy. In J. D. Osofsky (Ed.), *Handbook of infant development* (pp.1101-1149).

Bates, J. E. (1989) Applications of temperament concepts. In G. A. Kohnstamm, J. E. Bates, & M. K. Rothbart (Eds.), *Temperament in childhood* (pp.321-355). Chichester, England: Wiley.

Bates, J. E., & Bayles, K. (1984) Objective and subjective components in mother's perceptions of their children from age 6 months to 3 years. *Merrill-Parmer Quarterly*, 30 (2), 111-130.

Carey, W. B. (1970) A simplified method for measuring infant temperament. *Journal of Pediatrics*, 77(2), 188-194.

Carey, W. B., & McDevitt, S. C. (1978) Revision of the infant temperament questionnaire. *Pediatrics*, 61, 735-739.

Carey, W. B. (1982) Clinical use of temperament data in pediatrics. In: Ruth, P., GERALYN, M. C. (eds.) *Temperamental differences in infants and young children* (Ciba Foundation symposium 89) (pp. 191-205). London: Pitman Books.

Cutrona, C. E., & Troutman, B. R. (1986) Social support, infant temperament, and parenting self-efficacy: A mediational model of postpartum depression. *Child Development*, 57, 1507-1518.

Escalona, S. A. (1968) *The roots of individuality* :

Normal patterns of development in infancy. Chicago : Aldine.

Gowen, J. W., Johnson-Martin, N., Goldman, B. D., & Appelbaum, M. (1989) Feelings of depression and parenting competence of mothers of handicapped and nonhandicapped infants : A longitudinal study[Special issue : Research on families]. *American Journal on Mental Retardation*, **94**, 259-271.

Hock, E., McBride, S., & Gnezda, M.T. (1989) Maternal Separation Anxiety: Mother-infant separation from the maternal perspective. *Child Development*, **60** (4) , 793-802.

Honjo, S., Mizuno, R., Ajiki, M., Suzuki, A., Nagata, M., Goto, Y., & Nishide, T. (1998) Infant temperament and child-rearing stress : birth order influences. *Early Human Development*, **51**, 123-135.

水野里恵 (1998) 乳児期の子どもの気質・母親の分離不安と後の育児ストレスとの関連 : 第一子を対象にした乳幼児期の縦断研究. *発達心理学研究*, **9** (1), 56-65.

Nover, A., Shore, M. F., Timberlake, E. M., & Greenspan, S. I. (1984) The relationship of maternal perception and maternal behavior: A study of normal mothers and their infants . *American Journal of Orthopsychiatry*, **54**, 210-223.

Oberklaid, F., Sanson, A., Pedlow, R., & Prior, M. (1993) Predicting preschool behavior Problems from temperament and other variables in infancy, *Pediatrics*, **91** (1) , 113-120.

Prior, M., Sanson, A., Carroll, R., & Oberklaid, F. (1989) Social class differences in temperament ratings by mothers of preschool children. *Merrill-Parmer Quarterly*, **35** (2) , 239-248.

佐藤俊昭 (1985) 子どもの気質の追跡研究. *東北大学教養部紀要*, **43**, 151-171.

佐藤達哉、菅原ますみ、戸田まり、島悟、北村俊則 (1994) 育児に関連するストレスとその抑うつ重症度との関連. *心理学研究*, **64** (6)、409-416.

Sanson, A., Prior, M., Garino, E., Oberklaid, F., & Sewell, J. (1987) The structure of infant temperament : Factor analysis of the Revised Infant Temperament

Questionnaire. *Infant Behavior and Development*, **10**, 97-104.

Sanson, A. V., Smart, D. F., Prior, M., Oberklaid, F., & Pedlow, R. (1994) The structure of infant temperament : From age 3 to 7 years : Age, sex, and sociodemographic influences. *Merrill-Parmer Quarterly*, **40** (2) , 233-252.

Sanson, A., & Rothbart, M. K. (1995) Ch. 13 Child Temperament and Parenting. In M. Bornstein. (Ed.) *Handbook of Parenting Vol.4 : Status and social conditions of parenting*(pp.299-321) Lawrence Erlbaum Associates.

Sasaki, Y., Mizuno, R., Kaneko, K., Murase, M., & Honjo, S. (in submitted) Application of the RITQ for evaluating temperament in the Japanese infant –creation of an abridged Japanese version . *Psychiatry and Clinical Neurosciences*.

島悟、鹿野達男、北村俊則、浅井昌弘 (1985) 新しい抑うつ性自己評価尺度について. *精神医学*, **27** (6)、717-723.

菅原ますみ、島悟、戸田まり、佐藤達哉、北村俊則 (1994) 乳幼児にみられる行動特徴—日本語版 RITQ および TTS の検討—. *教育心理学研究*, **42**, 315-323.

菅原ますみ、詫摩紀子 (1997) 夫婦間の親密性の評価—自記入式夫婦関係尺度について—. *精神科診断学*, **8** (2)、155-166.

Sugawara, M., Kitamura, T., Aoki, M., & Shima, S. (1999) Longitudinal relationship between maternal depression and infant temperament in a Japanese population. *Journal of Clinical Psychology*, **55** (7) , 869-880.

Thomas, A, Chess, S., Birch, H. G., Hertig, M. E., & Korn, S., (1963) *Behavioral individuality in early childhood*. New York : N. Y. University Press.

Wolkind, S. N. (1982) Infant temperamental, maternal mental state and child behavior problems. In: Ruth, P., & GERALYN, M. C. (eds.) *Temperamental differences in infants and young children (Ciba Foundation symposium 89)* (pp.221-239). London: Pitman Books.

研究成果の刊行に関する一覧表

1. 論文発表

- Nagata,M., Nagai,Y., Sobajima,H., Ando,T. and Honjo,S. (2004) Depression in the early postpartum period and attachment to children—in mothers of NICU infants. *Infant and Child Development*, 13 ; 93-110.
- Honjo Shuji., Arai Shiori., Kaneko Hitoshi., Ujiie Tatsuo., Murase Satomi., Sechiyama Haya., Sasaki Yasuko., Hatagaki Chie., Inagaki Eri., Usui Motoko., Miwa Kikuko., Ishihara Michie., Hashimoto Ohiko., Nomura Kenji., Itakura Atsuo., & Inoko Kayo. Antenatal depression and maternal fetal attachment. *Psychopathology* 36; 304-311.
- Honjo Shuji., Sasaki Yasuko., Kaneko Hitoshi., Tachibana Kota., Murase Satomi., Ishii Takashi., Nishide Yumie., & Nishide Takanori. 2003 Study on feelings of school avoidance, depression, and character tendencies among general junior high and high school students. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 57, 464-471.
- Nagata M, Nagai Y, Sobajima H, Ando T, Honjo S. 2003 Depression in the mother and maternal attachment—results from a follow-up study at 1 year postpartum. *Psychopathology*. 2003 May-Jun;36(3):142-51.
- Murase S, Ochiai S, Ueyama M, Honjo S, Ohta T. 2004 Psychiatric features of seriously life-threatening suicide attempters: a clinical study from a general hospital in Japan. *J Psychosom Res*. 2003 Oct;55(4):379-83.
- Shuji Honjo, Rie Mizuno, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Hitoshi Kaneko, Takanori Nishide, Masako Nagata, Hisanori Sobajima, Yukiyo Nagai, Tsunesaburo Ando, & Yumie Nishide 2002 Temperament of Low Birth Weight Infants and Child-Rearing Stress: Comparison with full-term healthy infants. *Early Child Development and Care*, 172, 65-75.
- 金子一史（印刷中）、妊婦および褥婦のメンタルヘルス。後藤節子、森田せつ子（編）
テキスト母性看護、名古屋大学出版会

村瀬聡美（印刷中）、精神神経疾患合併妊娠。後藤節子、森田せつ子（編）テキスト母性看護、名古屋大学出版会

金子一史、本城秀次、村瀬聡美、野呂健二（2004）母親から子どもへの愛着形成—心理社会的検討— 小児科臨床 57:1273-1279

金子一史、本城秀次（2004）周産期精神医学における乳児の役割.臨床精神医学、33; 997-1002.

本城秀次、村瀬聡美、金子一史、荒井紫織、橋本大彦、野呂健二（2004）、乳幼児期からの家族支援 精神神経学雑誌 106(5):602-607

金子一史・本城秀次・村瀬聡美・氏家達夫・瀬地山葉矢・佐々木靖子・荒井紫織・石原美智恵・畠垣智恵・稲垣恵里・三輪紀久子・笛吹素子・田中奈美子・小林佐知子・雑賀美希子・溝口美鈴・内藤和代・上杉春香・野呂健二 2003 妊娠産褥期のメンタルヘルスと妊産婦研究 心理臨床-名古屋大学心理発達相談室紀要-, 19, 15-20.

金子一史・野呂健二・村瀬聡美・本城秀次 2003 周産期におけるメンタルヘルス 現代医学, 51, 29-33.

瀬地山葉矢、佐々木靖子、金子一史、村瀬聡美、本城秀次（2003）愛着とAdult Attachment Interview.精神科診断学、14;19-28.

本城秀次（2003）乳幼児の行動評価—Zero to Threeの臨床への応用.精神療法、29; 543-550.

佐々木靖子、瀬地山葉矢、本城秀次（2003）Adult Attachment Interviewに関する予備的検討—日本の妊婦と青年女子の比較から—.名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（心理発達科学）、50,195-205.

氏家達夫 2003 子どもの自律性を育てるしつけ——子どもの発達と個性に応じたしつけとは(特集 叱るしつけ・ほめるしつけ) 児童心理

2. 学会発表

国際学会

Kaneko Hitoshi., Sechiyama Haya., Sasaki Yasuko., Arai Shiori., Ishihara Michie.,

Hatagaki Chie., Inagaki Eri., Usui Motoko., Miwa Kikuko., Kobayashi Sachiko., Tanaka Namiko., Saiga Mikiko., Mizoguchi Misuzu., Naitou Kazuyo., Uesugi Haruka., Itakura Atsuo., Murase Satomi., Ujiie Tatsuo., Nomura Kenji., & Honjo Shuji. 2004 January, Depression Symptomatology and Maternal Attachment in Japanese Women During Pregnancy and Postpartum. World Association for Infant Mental Health 9th World Congress, Melbourne, Australia.

Kaneko Hitoshi., Shuji Honjo., Ujiie Tatsuo., Murase Satomi., Nomura Kenji., Sasaki Yasuko., & Shiori Arai. 2004 August, Maternal Attachment in Japanese Women During Pregnancy and one month after delivery. 16th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions, Berlin, Germany.

Kaneko, H., Sechiyama, H., Sasaki, Y., Arai, S., Ishihara, M., Hatagaki, C., Nishiwaki, K., Takeuchi, Y., Inagaki, E., Usui, M., Miwa, K., Honjo, S., Ujiie, T., Murase, S., Inoko, K., Itakura, A. 2002.7 DEPRESSION TENDENCY DURING PREGNANCY AND THE POSTPARTUM. World Association for Infant Mental Health (Amsterdam, Netherlands).

Hitoshi Kaneko, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Satomi Murase, Kayo Inoko. 2002.8 Psychological variables related to depression during pregnancy and after childbirth. XII World Congress of psychiatry (Yokohama, Japan).

Hitoshi Kaneko, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Yukina Hane, Shiori Arai, Michie Ishihara, Moyuko Nishimura, Eri Okochi, Mie Sasaki, Eichiro Suzuki, Shuji Honjo, M.D., Kayo Inoko, M.D., Atsuo Itakura, M.D. 2000.7 The relationship between depression in pregnancy and after childbirth. World Association for Infant Mental Health (Montreal, Canada).

Eri Okochi, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Yukina Hane, Hitoshi Kaneko, Shiori Arai, Michie Ishihara, Moyuko Nishimura, Hisayo Hosono, Mari Esaki, Shuji Honjo, Kayo Inoko, Atsuo Itakura. 2000.7 The relationship between the mother's assumption about their infant temperament before their childbirth and the actual temperament. World Association for Infant Mental Health (Montreal, Canada).

Moyuko Nishimura, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Yukina Hane, Hitoshi Kaneko, Shiori Arai, Michie Ishihara, Eri Okochi, Shuji Honjo, Kayo Inoko, Atsuo Itakura. 2000.7 Factors related to depression in early pregnancy. World

Association for Infant Mental Health (Montreal, Canada).

Hitoshi Kaneko, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Shiori Arai, Michie Ishihara, Yukina Hane, Moyuko Nishimura, Shuji Honjo, M.D., Kayo Inoko, M.D., Atsuo Itakura, M.D. 1999.5 Depressive tendencies during pregnancy and the factors involved. Asian society for child and adolescent psychiatry and allied professions (Seoul, Korea).

Haya Sechiyama, Yasuko sasaki, Hitoshi Kaneko, Hideaki Matsushima, Meirong Zhang, Shuji Honjo, Masako Nagata, Yukiyo Nagai, M.D., Hisanori Sobajima, M.D. Tsunesaburo Ando, M.D. 1999.5 Mothers' mental representation of childhood and infant-mother attachment experiencys. Asian society for child and adolescent psychiatry and allied professions (Seoul, Korea).

国内学会

本城秀次 2005 妊娠、産褥期の抑うつと子どもに対する愛着 第2回子どものメンタルヘルス関連合同医学会シンポジウム

金子一史 2004 周産期のメンタルヘルスと母親から子どもへの愛着 第45回日本児童青年精神医学会総会 学会企画シンポジウム「乳幼児精神医学」シンポジスト

丸山笑里佳・小林佐知子・雑賀美希子・金子一史・本城秀次・村瀬聡美・佐々木靖子・荒井紫織・野邑健二・中谷奈美子・瀬地山葉矢・石原美智恵・板倉敦夫 2004 妊娠期のうつ病におけるEPDSの感度と特異度についての分析 第13回日本乳幼児医学・心理学会

荻野聡子・伊藤里実・梅村祐子・北川朋子・山口栄・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・佐々木靖子・石原美智恵・板倉敦夫・野邑健二 2004 妊娠期の妻を持つ夫の抑うつと愛着 第45回日本児童青年精神医学会総会

佐々木靖子・瀬地山葉矢・金子一史・本城秀次 2004 妊婦の愛着対象と周産期の抑うつ傾向との関連 日本心理臨床学会第23回大会

金子一史・小塩真司・中谷素之・瀬地山葉矢・佐々木靖子・本城秀次 2003 妊娠産褥期における精神的回復力 日本心理学会第67回大会発表論文集,

佐々木靖子・金子一史・荒井紫織・畠垣智恵・稲垣恵里・笛吹素子・三輪紀久子・上杉春

香・小林佐知子・雑賀美希子・田中奈美子・内藤和代・溝口美鈴・本城秀次・瀬地山葉矢・石原美智恵・板倉敦夫 2003 妊婦のAdult Attachment Interviewと抑うつ傾向との関連(2) 第13回日本乳幼児医学・心理学会

小林佐知子・本城 秀次・氏家 達夫・村瀬 聡美・金子 一史・荒井 紫織・佐々木 靖子・瀬地山 葉矢・畠垣 智恵・稲垣 恵理・三輪 紀久子・笛吹 素子・雑賀 美希子・内藤 和代・上杉 春香・田中奈美子・溝口 美鈴・石原 美知恵・野邑 健二・板倉 敦夫 2003 妊娠期における母親の子どもへの愛着と抑うつおよび内的ワーキングモデルとの関連 第44回日本児童青年精神医学会総会

溝口美鈴・佐々木靖子・畠垣智恵・稲垣恵里・三輪紀久子・笛吹素子・上杉春香・小林佐知子・雑賀美希子・田中奈美子・内藤和代・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・瀬地山葉矢・猪子香代・板倉敦夫・野邑健二・橋本大彦 2003 妊娠期・産後の母親の子どもへの愛着と子どもの気質との関連について 第13回日本乳幼児医学・心理学会

笛吹素子・佐々木靖子・瀬地山葉矢・畠垣智恵・稲垣恵里・三輪紀久子・上杉春香・小林佐知子・田中奈美子・内藤和代・溝口美鈴・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・猪子香代・板倉敦夫・野邑健二 2002 産褥期の母親の新生児に対する愛着について 第12回日本乳幼児医学・心理学会

三輪紀久子・瀬地山葉矢・佐々木靖子・畠垣智恵・稲垣恵里・笛吹素子・小林佐知子・田中奈美子・内藤和代・溝口美鈴・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・猪子香代・板倉敦夫・野邑健二・橋本大彦 2002 ハイリスク外来を受診する妊婦の抑うつ・不安とサポートについて -妊娠中期から産後1ヶ月にかけて- 第43回日本児童青年精神医学会総会

竹内良恵・西脇喜恵子・金子一史・佐々木靖子・瀬地山葉矢・畠垣智恵・稲垣恵里・笛吹素子・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・荒井紫織・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫 2001 妊婦・産褥期および正誤1ヶ月の抑うつ感・愛着の実感 第11回日本乳幼児医学・心理学会

稲垣恵里・金子一史・佐々木靖子・瀬地山葉矢・畠垣智恵・西脇喜恵子・竹内良恵・三輪喜久子・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・荒井紫織・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫 2001 生後1ヶ月時の乳児の気質と母親の抑うつ・愛着との関連について 第11回日本乳幼児医学・心理学会

佐々木美恵・高城絵里子・鈴木英一郎・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・大河内絵里・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫 2000 妊娠後期・出産直後における母子間の愛着関係と関連する要因

について 第41回日本児童青年精神医学会総会

高城絵里子・鈴木英一郎・佐々木美恵・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・大河内絵里・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫 2000 妊娠中期の妊婦における抑うつと赤ちゃんイメージとの関連 第41回日本児童青年精神医学会総会

鈴木英一郎・佐々木美恵・高城絵里子・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・大河内絵里・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫 2000 抑うつ尺度の因子構造について-妊娠中期・後期・産褥期での比較- 第41回日本児童青年精神医学会総会

佐々木靖子・瀬地山葉矢・金子一史・羽根由紀奈・荒井紫織・大河内絵里・高城絵里子・佐々木美恵・鈴木英一郎・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・石原美智恵 2000 妊婦のAdult Attachment Interviewと抑うつ傾向との関連 乳幼児医学・心理学会第10回大会

畠垣智恵・竹内良恵・西脇喜恵子・瀬地山葉矢・佐々木靖子・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・大河内絵里・佐々木美恵・鈴木英一郎・高城絵里子・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・板倉敦夫 2000 周産期における抑うつ感情の変動とそれに関連する要因について 乳幼児医学・心理学会第10回大会

西脇喜恵子・竹内良恵・金子一史・佐々木靖子・瀬地山葉矢・畠垣智恵・稲垣恵里・笛吹素子・本城秀次・村瀬聡美・荒井紫織・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫 2001 胎児を喪失した妊婦の次子出産に対する不安について 第42回日本児童青年精神医学会総会

荒井紫織・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・石原美智恵・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・板倉敦夫 1999 妊娠中の抑うつ傾向とそれに関連する要因 第40回日本児童青年精神医学会総会

西村もゆ子・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・大河内絵里・鈴木英一郎・細野久容・本城秀次・猪子香代・板倉敦夫 1999 妊婦の抑うつとそれに関連する要因についての研究 乳幼児医学・心理学会第9回大会

瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・板倉敦夫 1999 Adult Attachment Interviewと胎児への愛着、夫婦関係との関連 乳幼児医学・心理学会第9回大会

佐々木靖子・瀬地山葉矢・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・本城秀次 2000 IWM
と対人関係の認識および親への愛着の回想—妊婦・青年のAAIより— 発達心
理学会第11回大会

瀬地山葉矢・佐々木靖子・金子一史・松島秀明・戸田和代・張美蓉・本城秀次・永田雅
子・永井幸代・側島久典・安藤恒三郎 1998 母親の愛着経験と母子関係～
Strange SituationとAdult Attachment Interviewとの関連を中心に 乳幼児
医学・心理学研究, 7, 55.